



取扱説明書

**VYPYR<sup>®</sup> 15, 30, 75, 100, 60 Tube & 120 Tube**



## 使用上のご注意

この説明書をよく読んで下さい。

この説明書を無くさない様大切に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり形状の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。ご自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず60センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。アンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

小さなお子様の手に触れないよう注意して下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取る際に溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏面に表示されている条件を満たす AC 電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。



## 世界最先端のモデリングアンプ、 VYPYR®の世界へようこそ！

VYPYR は新基準のトーンと革新的なアンプモデリングを備えており、きっとあなたの強力な味方となることでしょう。

43 年間にわたるチューブアンプとアナログディストーションの開発における経験をもとに、Peavey は真のアナログディストーションと高度なデジタルエフェクトアルゴリズムを組み合わせ、世界最高のモデリングアンプを生み出しました。

VYPYR のアナログディストーションは数あるモデリングアンプの中で群を抜いた表現力を持ちます。当社の特許技術である「Trans Tube®」は、リアルアナログディストーションとすべてのモデリングアンプの最先端プロセッサ(266 MHz Dual Core SHARC)の組み合わせを可能にします。

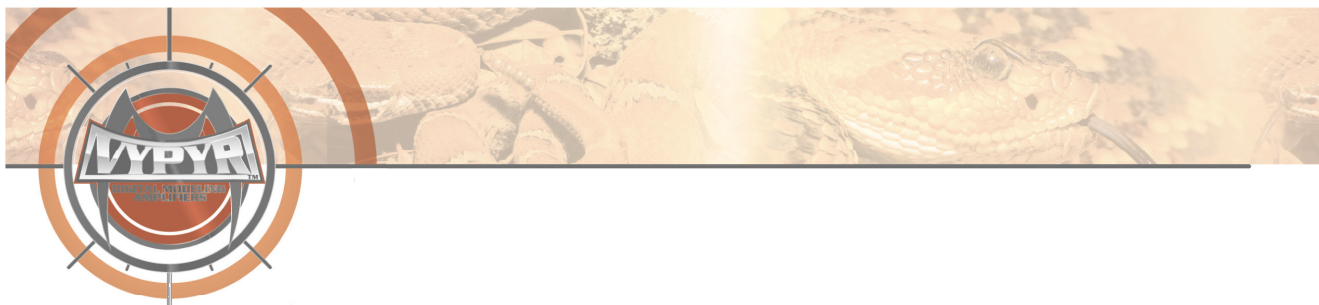
この驚くべきテクノロジーのコンビネーションによって、VYPYR はアナログアンプのリアルサウンドを保ちつつ、最大5つのエフェクトを同時に操作することができます。この技術により、他の製品では得ることができない素晴らしい音色を家庭だけではなくステージやスタジオでも存分に楽しむ事が出来るでしょう。

私たちは、VYPYR と出会ったあなたが素晴らしいミュージックライフと、他に追従されることのないオリジナルサウンドを手に入れることを心より願っております。

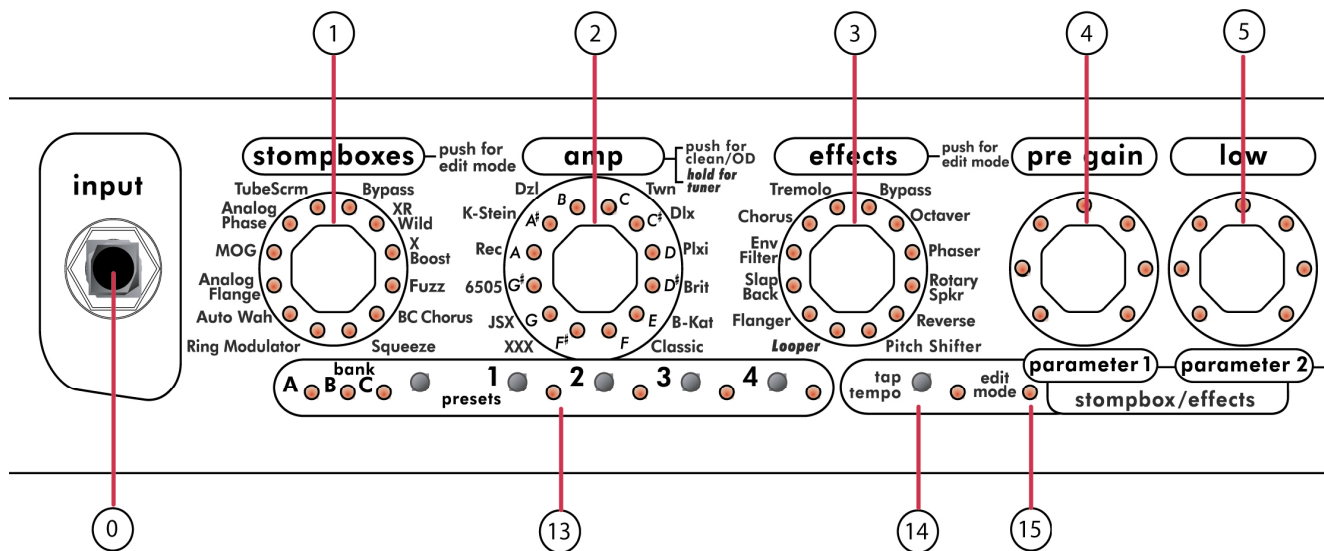
リアパネルの電源コード差し込み口の横に本機の適正電圧が記載されています、使用する前に適切な電圧であるか必ず確認してください。

換気の為に本体の後ろに 60 センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口付近に新聞やテーブルクロス、カーテン等、可燃しやすいものを置かないで下さい。





## クイックスタート



### 0 : input

ギターケーブル（シールド）の差し込み口です。

### 1 : stompboxes \*VYPYR 15®ではご利用できません。

このつまみ( )を回しお好みのプリアンプエフェクトを選択出来ます( 11 種類のエフェクトペダルを新たに買う必要が無いのです!)。つまみを押しと edit mode に切り替わり、細かなセッティングが可能です。

### 2 : amp

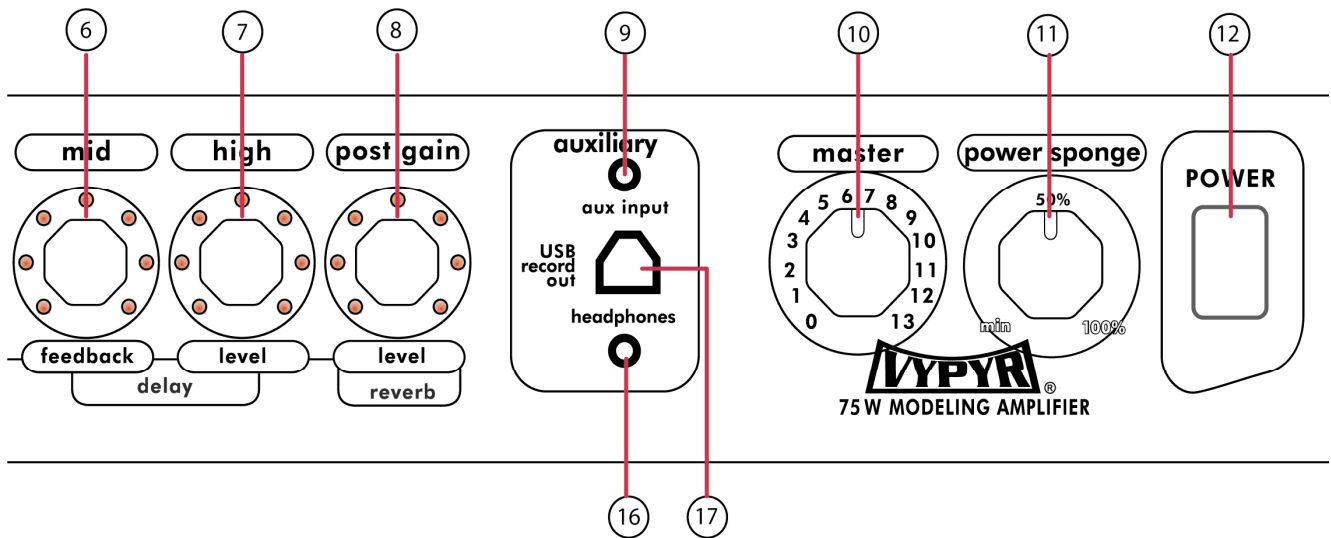
このつまみを回しアンプモデルを選択します。ライトが赤であればハイゲインチャンネルです。つまみを押し、ライトが緑に切り替わるとローゲインセッティングです。2 秒間押し続けると tuner mode に切り替わります。amp( )周囲の LED が音名を表示します。同時に、effects ( ) 周辺の LED が現在の音程がシャープしているかフラットしているかを表示します。緑の LED が 12 時の位置より右にあれば、シャープしている状態（チューンダウンが必要な状態）です。緑の LED が 12 時の位置より左にあれば、フラットしている状態（チューンアップが必要な状態）です。effects 周辺の LED 全てが点灯すると、チューニングが合っている状態です!

### 3 : effects

このつまみ( )を回しお好みの「ラック」エフェクトを選択出来ます( アンプのエフェクトループに接続されているものとお考えください)。つまみを押しと edit mode に切り替わり、細かなセッティングが可能です。

### 4 : pre gain

このつまみを回し、歪みの量を調節してください。stomp boxes または effects の edit mode 時は、このつまみで選択したエフェクトの parameter1 を調節できます。



#### 5 : low

イコライザーです。低音域のブースト、カットを調整します。edit mode 時は、このつまみで選択したエフェクトの parameter2 を調節できます。

#### 6 : mid

イコライザーです。中音域のブースト、カットを調整します。edit mode 時は、このつまみで delay の feedback を調節出来ます。feedback は delay のリピート回数です。

#### 7 : high

イコライザーです。高音域のブースト、カットを調整します。edit mode 時は、このつまみで delay の level を調節します。つまみが左いっぱい level が 0 の状態、右いっぱい MAX です。

#### 8 : post gain

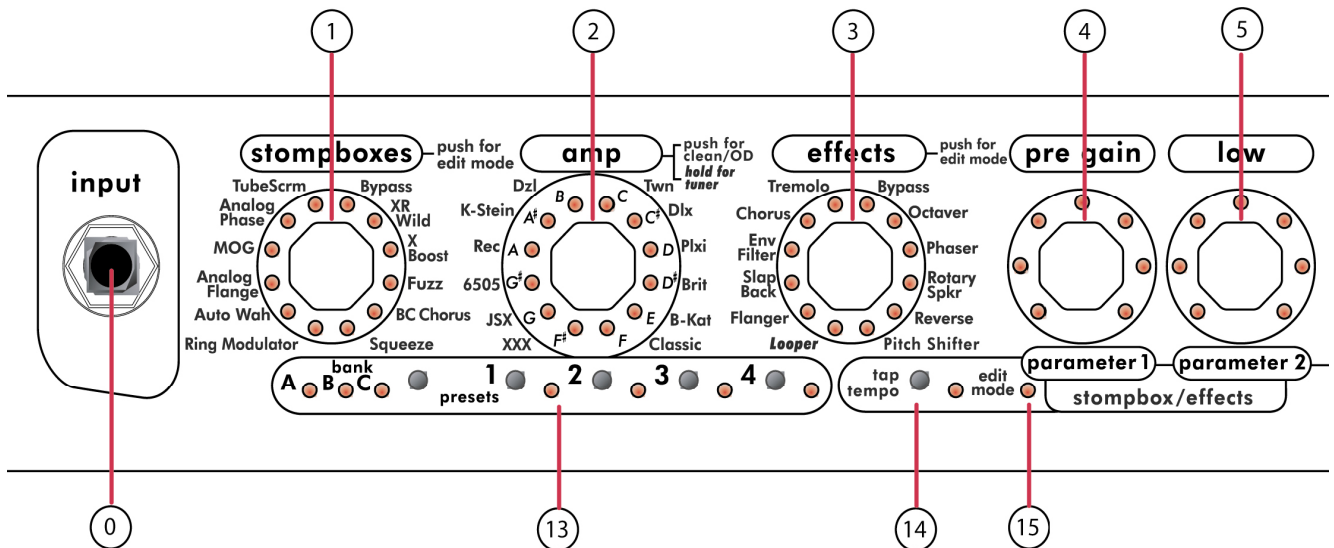
このつまみを回しプリセット全体のボリュームと歪み量を調整します。edit mode 時は、このつまみで reverb の level を調節します。つまみが左いっぱい level が 0 の状態、右いっぱい MAX です。

#### 9 : aux input

お気に入りの mp3 プレーヤー、ドラムマシン、CD プレーヤーを接続してギターサウンドと同時に再生することができます。

#### 10 : master

全体のボリュームを調節します。



11 : power sponge® \* VYPYR 75 と 100 のみ搭載。

このつまみで、アンプのアウトプット出力を調節することができます。

マスターボリュームと違い、アンプが生み出すことのできる電力量自体を調整します(つまり、100w 級のヘッドアンプにパワーダウントランスアッテネーターを使用する事に似た状況を作り出します)。

この特許取得済み回路によって、寝室のような静かな環境でも極限まで性能を引き出したサウンドを得ることができます。

## 12 : POWER

電源を入れてみましょう！ VYPYR は先端技術により、非常にスピーディーに起動します。VYPYR チューブアンプリファイアでは、スタンバイスイッチが追加されています。このスイッチによって真空管を暖気する時間が得られます。真空管は電力を生成するために高温である必要がある為、電源を入れて3分程暖気してからスタンバイスイッチを入れてください。

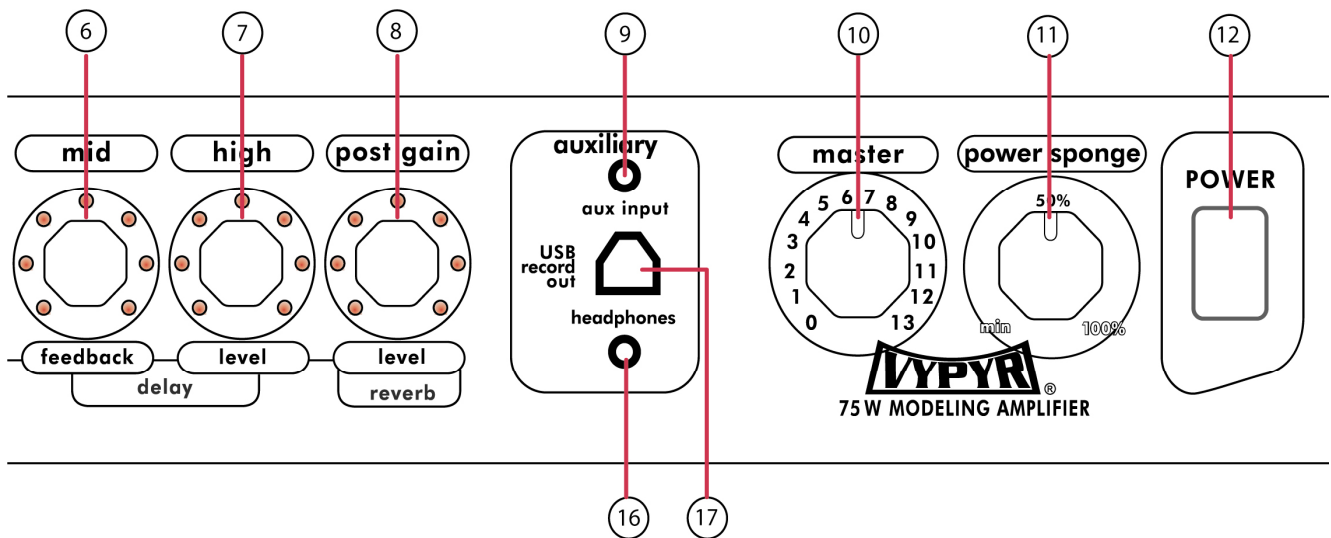


注意：ご使用中や電源を切ってから30分以内は、  
アンプ内部が非常に高温になっており、  
火傷の恐れがあるので注意して下さい。

## 13 : bank と presets 選択

VYPYR には 12 の初期プリセットがあります。これらのプリセットは 4 グループに分かれており、バンク A、B、C に保存可能です。バンクの選択は、bank の LED のすぐ右横にあるボタンを押します。LED が A,B,C,のバンクのうち現在選択されているものを表示します。バンク切り替えボタンの右にある 4 つのボタンで、呼び出したいプリセットを選択します。LED が 4 つのバンクのうち現在選択されているものを表示します。プリセットを変更し任意の設定を保存したい場合は、アンプをお好みのサウンドに設定しプリセットボタンのひとつを押します。

(注：バンク選択後、約 3 秒間プリセットの選択が行われない場合は元のバンクに戻ります。)



#### 14 : tap tempo

このボタンを軽く押しして delay のテンポを調節します。

\*delay が聞こえない場合は、edit mode に切り替えて前述した方法で level を上げます。

#### 15 : edit mode

edit mode では各ツマミの下に表記されているように、 ~ のツマミを代替コントロールとして使用します。edit mode では、effects 設定時は LED が緑に点灯し、stomp boxes の設定時は赤く点灯します。

edit mode に入るには、stomp boxes ツマミ( )または effects ツマミ( )のいずれかを押すだけです。edit mode を終了するには、同じツマミをもう一度押すだけです。

\*delay または reverb の設定を行う場合は、必ず edit mode に切り替える必要があります！

#### 16 : headphones/ recording out

Peavey は、多くの時間を費やしスタジオ品質に劣らない headphone ジャックの開発に成功しました。それにより、この headphone ジャックを recording out として録音に使用することもできます。

注記：ヘッドフォン使用中はスピーカーはミュートされます！

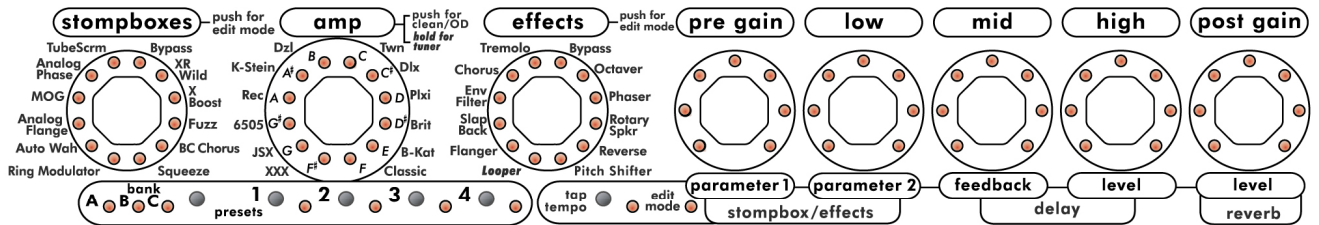
Master ツマミ( )でヘッドフォンの音量を調節できます。

#### 17 : USB record out \*VYPYR 15,30 はご利用できません。

VYPYR の USB record out にはドライバは不要です。標準 USB ケーブルを自身のコンピュータに接続するだけで、VYPYR をオーディオ検出します。お気に入りのレコーディングプログラムを開きレコーディングを開始します。出力はキャビネットにマイクを立てたかのようなシミュレーションでコンピュータでの録音に良好なサウンドを鳴らします。

注記：USB アウトプットをご使用の際、スピーカーは自動的にミュートされます。





**注：「ライト・ショーについて」**

これは、アンプが待機状態時に退屈しないようにするためのものです。

ギターをアンプにつなげると、LED の点滅は自動的に停止します。電源オン時にケーブルがアンプに繋がれていれば、LED は消えたままです。ライト・ショーを完全に無効にしたい場合は、アンプがオンの際にツマミ( )と( )を押し続けます。次にアンプをオンにするときはライト・ショーは無効になります。

**選択ツマミについて**

Input ジャックの右から順に VYPYR®は 3 つのセクションに分かれています。

stompboxes ツマミ、amp ツマミ、effects ツマミ、このいずれかのツマミをまわすことで、該当する LED が点灯します。

**「なぜ他のアンプリファイアのように amp ツマミを左に置かないのか？」**

この 3 つのセクションは、シグナルパスの順番で位置づけされています。

stomp boxes(フロアエフェクター)は通常、ギターの出力をスタートとした場合アンプの前にあり、したがって amp ツマミの前に配置するのがベストと考えました。

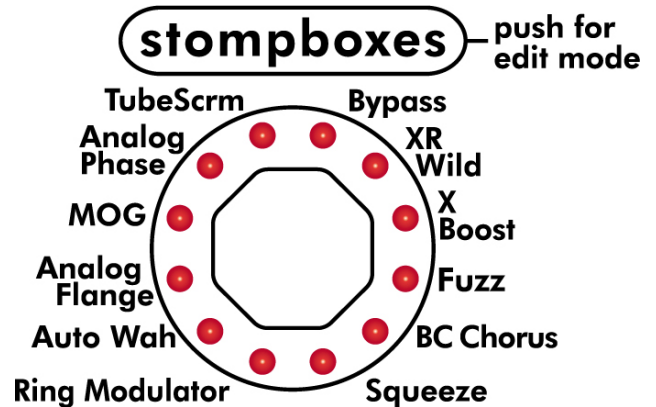




## ストンプボックスエンコーダ

VYPYR.15 ではご利用できません

Input ジャックから最初にアクセスするセクションは stomp boxes 選択つまみです。このつまみではギターをお気に入りのペダルに接続しアンプに接続する stomp boxes (いわゆるフロアエフェクター) を選択します。stomp boxes つまみで、ディストーションをはじめお好みのペダルを選択し、これらにクリーン (またはリード) アンプ設定を組み合わせることで無数の素晴らしいサウンドメイクが可能です。stomp boxes つまみを回して目的のエフェクトを選択するだけです。パラメータを調整したい場合は、つまみを押して、edit mode に切り替えます (クイックスタートガイドの edit mode を参照してください)。



Tube Scrm とクリーンチャンネルの ( 緑色の LED ) Dix を是非組み合わせてみてください !

極上の、あの往年のエレクトリック・ブルースサウンドが得られるはずです。

## stompboxes 内容詳細

### XR Wild

クランチサウンドの音作りに最適なオーバードライブペダルです。クリーンチャンネルまたは、リード用として歪み系アンプの前にこれを使用します。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : ドライブ

### X Boost (X ブースト)

ディストーション等の歪み系エフェクトやクリーンブーストではなく BOOSTER です。クランチがトーンに変化を与え、特定の周波数をブーストしてウォームなトーンを生み出します。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : ドライブ

### Fuzz (ファズ)

60 年代・70 年代のクラシックファズトーン。クリーンアンプ設定で是非 !

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : ドライブ

### BC Chorus (BC コーラス)

この暖かいアナログコーラスモデュレーションは、貴方にとってプリセットの中でも特別なものとなるでしょう。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : ドライブ



### Squeeze (スクイーズ)

このコンプレッサーで、ピッキングのアウトプットレベルと感度の調節が可能です。Squeeze は、クリーンギターでパーカッシヴな音やリードワークで甘い音を生み出すことが可能です。クリーンチャンネルでまず弦をやわらかくピッキングし、エフェクトのかかり具合を調節して下さい。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : 感度

### Ring Modulator (リングモジュレータ)

リングモジュレータは、2 つの波形を組み合わせ、合体波形と各波形の周波の差異を再生します。突拍子もない過激なサウンドが癖になることでしょう。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : キャリア周波数 Parameter2 : ミックス

### Auto Wah (オートワウ)

オートワウは、ボーカルの周波数帯に近い可変周波数フィルタを使用してギターに「ワウ・エフェクト」を加えます。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スピード Parameter2 : スウィッチ深さ

### Analog Flange (アナログフランジ)

アナログフランジは、2 つの同一信号のうち1 つが若干遅らされ、もとの信号とミックスされるときに発生する時間差音響効果を利用したエフェクトです。強烈な独特のウネリを発生させます。

### MOG (モノフォニック・オクターブ・ジェネレータ)

Peavey による独自開発のエフェクトです。MOG とは、「モノフォニック・オクターブ・ジェネレータ」を指します。

演奏したフレーズの 1 オクターブ高い音と 1 オクターブ低い音が鳴ります。このエフェクトはコードと併用すると非常に画期的なサウンドとなります、エフェクトに慣れる意味でもまずシングルノートから様々なフレーズを楽しんで頂ければ幸いです。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : オクターブ上のレベル Parameter2 : オクターブ下のレベル

### Analog Phase (アナログフェイズ)

アナログフェイズは、フランジャーと混同されやすいエフェクトです。原音に位相をずらした音をミックスすることによって生じる位相差がフランジャーとは違った独特のウネリを生み出します。

### Tube Scrm

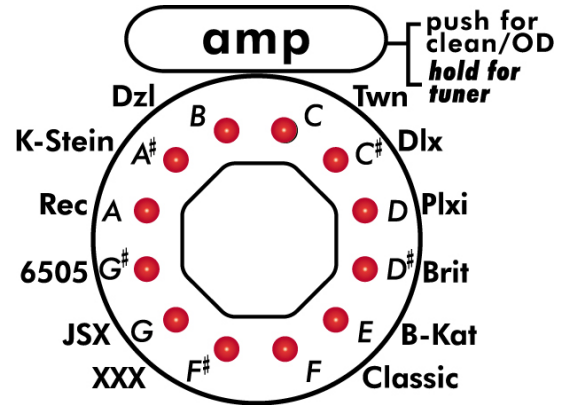
軽くミッドブーストをしたシンプルクラシックオーバードライブディストーション。シンプルな歪みであるが故に豊かな表現力を持ち、ほとんど全てのアンプモデルにマッチします。スターターとしてクリーンの DLX と組み合わせて使用してみてください。素晴らしいサウンドを得ることができるでしょう。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : レベル Parameter2 : ドライブ



## アンプエンコーダ

VYPYR®アンプリファイアで最も独特な機能のひとつに、クリーン/オーバードライブの選択切替機能が挙げられます。各アンプモードには、2つのチャンネルモードが含まれており、通常はクリーンチャンネルとオーバードライブチャンネルです。オリジナルアンプリファイアに3つのチャンネル(JSX®)がある場合、お気に入りの2つだけを選択します。ツマミを回してお好みのアンプモデルを選択してください。チャンネルモードを選択するには、ツマミを押すだけです。LEDが緑の場合、ディストーションの少ない(クリーン / クランチ)チャンネルとなります。赤の場合、ディストーションチャンネルになります。



### イコライザー(EQ)に関して

VYPYRのアンプリファイアのモデリング開発に当たって、Peaveyは様々なアンプのEQがどのように機能するかを慎重に検証しました。たとえばJSXにはリードチャンネルにアクティブEQがあり、Tw'nの緑のチャンネルとは非常に異なった形でEQが動作します。各アンプモデルのEQが実際のアンプと同じように動作する様にモデリングしました。したがって、一部のモデルではEQに大きな増減があり、一方では非常に小さな増減のものもあります。各アンプの特性を再現したEQの“キャラクター”をお楽しみください。

#### Tw'n

緑のチャンネル:非常に明るいクリーンサウンドです。多くのプレーヤーの基準となっているあのトーンのモデリングです。  
赤のチャンネル:このモデルは、エクストラゲインステージとして使用されたりバーブチューブの改造 Tw'n を再現しています。

#### Dlx

緑のチャンネル:ミッドノブ付きピンテージツイードです。このアンプはハイエンドモデルで、プレゼンスの少ない Tw'n よりも立ち上がりの良いサウンドです。  
赤のチャンネル:EQセクションの後ろに歪みチャンネルが追加された、モディファイ Dlx を再現しています。

#### Plxi

緑のチャンネル:ブリティッシュ系アンプのクラシックロックトーンです。  
赤のチャンネル:エクストラゲインステージとトーンシェイピングが追加されたモディファイ Plxi です。

#### Brit

緑のチャンネル:ブリティッシュ系アンプを代表するサウンドのモデリングです。  
赤のチャンネル:モデリング対象となったアンプのEQセクションが意図的にショートされたものなので、このモデリングではトーン・コントロールに限界があります。



### B-Kat

緑のチャンネル: クラス A アンプモデルを再現しており、独自のトーンでモダンなロックディストーションサウンドを鳴り響かせます。

赤のチャンネル: 緑のチャンネルよりもホットなロックギターサウンドです。素晴らしいディストーションを是非体感してください。

### Classic®

The Peavey Classic 50 は、最もギタリストに愛されたアンプのひとつです。このレスポンスブルゲイン構成を採用したシリーズでブルース・ギタリストからハードロックまで幅広いプレイヤーから崇拜されています。

緑のチャンネル: ノーマルインプットでプレゼンスコントロールを 7 に設定したクリーンチャンネル。

赤のチャンネル: ノーマルインプットでプレゼンスコントロールを 7 に設定したリードチャンネル。

### XXX

Peavey Triple XXX®は多くのハイゲインアンプユーザーから支持されています。名前に恥じる事のないホットで過激なサウンドを響かせ、気弱な人にはお薦め出来ないハードなアンプです。ウルトラ及びクランチチャンネルは Bottom、Body、Hair (XXX 独自のアクティブコライザーです。Bottom=Low、Body=Mid、hair=Hi) を利用しサウンドメイクします。

緑のチャンネル: Triple XXX クリーンチャンネル。

赤のチャンネル: Triple XXX ウルトラチャンネル。

### JSX®

ジョー・サトリアーニと PEAVEY の強力タッグが生み出した、ヴィンテージからモダンハイゲインまでカバーする JSX Combo のモデリングです。

緑のチャンネル: JSX 212Combo クランチチャンネル、プレゼンス 6.5、レゾナンス 9。

赤のチャンネル: JSX 212Combo ウルトラチャンネル、プレゼンス 6.5、レゾナンス 9。

### 6505®

6505 シリーズアンプは、奥深く艶かしいトーン、過激なパワー、プレイアビリティの信頼性により誰もが認めるロック、ハードコア、メタルバンドのための最強ギターアンプです。6505 は、発展し続ける世界のメタルサウンドを常にリードしています。

緑のチャンネル: 6505Plus クランチチャンネル、プレゼンス 7、レゾナンス 7。

赤のチャンネル: 6505Plus リードチャンネル、プレゼンス 7、レゾナンス 7。





## Rec

Rec はスムーズディストーションで名高いハイゲインアンプモデルを再現しています。このアンプには 6505 の様なゲインはありませんが、各国のプレーヤーに支持されている独自のサウンドキャラクターを持っています。

緑のチャンネル：「オレンジ」チャンネル、3 のプレゼンス。

赤のチャンネル：「レッド」チャンネル、3 のプレゼンス。

## K-Stein

Rec に似ていますが、モデリングされたアンプリファイア内の 5881 パワーチューブによって独自のキャラクターを持つアンプです。

緑のチャンネル：ハイゲインチャンネルのクランチバージョン、プレゼンス 12 時、スウィープ 12 時。

赤のチャンネル：ハイゲインチャンネル、プレゼンス 12 時、スウィープ 12 時。

## DZL

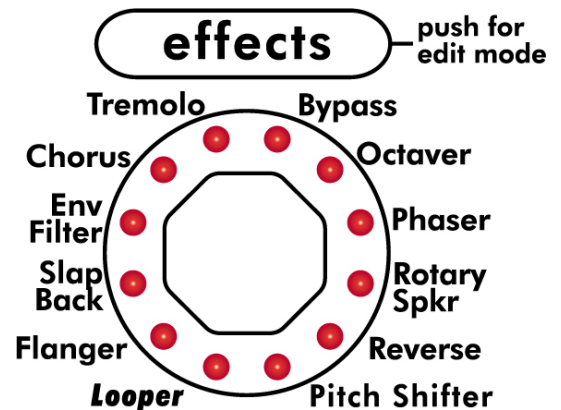
80Hz 周囲のローエンドに独特な増幅がある独自のキャラクターを持つハイゲインアンプをモデリングしました。

緑のチャンネル：チャンネル 2、プレゼンス 12 時、Depth12 時。

赤のチャンネル：チャンネル 4、プレゼンス 12 時、Depth12 時。

## エフェクトエンコーダ

左から 3 つ目のつまみは、エフェクトセレクターです。このつまみはいわゆる「ラック」エフェクトを選択します。ラックエフェクトは、通常アンプ上でエフェクトループに接続し使用されます。ユニットが一般的に 19 インチ幅ラックに適合するように設計されている為、「ラックエフェクト」と呼ばれています。これらはブリアンプエフェクト (stomp boxes) とはかなり異なるキャラクターのエフェクトです。エフェクトを選択するには、LED が目的のエフェクトの横になるようにつまみを回すだけです。



## Octaver

名前が示すとおり、このエフェクトは演奏している音程の 1 オクターブ下のトーンを生成します。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : ミックス(エフェクト量 VS ドライ信号) Parameter2 : オクターブレベル

## Phaser

stompboxes 上のアナログフェイザーモデルとは異なり、このフェイザーは 8 段を採用しています。ボトムライン、「スタンプボックス」内よりも多彩なフェイズサウンド。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スピード Parameter2 : 深さ



### Rotary

このエフェクトはロータリースピーカーの音をモデリングします。このエフェクトは、ドップラー効果によってピッチが変化する様にシミュレートスピーカーが回転するようなサウンドを生み出します。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スピード Parameter2 : 深さ

### Reverse

名前が示すとおり、演奏すると逆再生したかのような、リバーブサウンドになります。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : タイム Parameter2 : ミックス

### Pitch Shifter

Sampera I または II オプションフットコントローラーで、オリジナルノートからパラメータ調整で選択された音符にピッチシフトが可能です。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : インターバル (音符) Parameter2 : ミックス

### Flanger

Stompboxes エフェクトの Analog Flange とは異なり、このフランジャーはより長いタイムでのうねりを作り出せます。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スピード Parameter2 : 深さ

### Slap Back

演奏したフレーズに短いディレイ音が繰り返されます。まるでチキンピッキングで演奏しているかのようなサウンドも可能にします。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : タイム Parameter2 : ミックス

### Env Filter

エンベロープフィルターの略称で知られるこのエフェクトは、オートワウに似ています。主な違いはパラメータ調整にあり、Env Filter で、「Q」(指定された周波数帯)の可変を可能にし、これによってオートワウの音に似たサウンドが生まれます。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スレッシュホールド Parameter2 : Q

### Chorus

stomp boxes 上のアナログコーラスに似ていますが、より長いディレイラインを得られます。このエフェクトによって、stomp boxes 上のアナログコーラスよりも「よりウェットな」サウンドを作りだすことが出来ます。実際、最も極端なセッティングでは信号上のダブリングエフェクトをクリアに聞くことができます。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1 : スピード Parameter2 : 深さ



## Tremolo

このエフェクトは周期的な音量の変化によって 揺れるサウンドが得られます。

注記：このエフェクトは Rotary とは異なります。Tremolo では、ピッチのばらつきはありません。

パラメータ調整 (edit mode) Parameter1：スピード Parameter2：深さ

Looper VYPYR15 ではご利用不可。

Looper はフットスイッチなしでは正しく開始・停止が出来ません。したがってこのエフェクトには Sanpera I または Sanpera II フットコントローラが必要になります。ルーパーは 30 秒以上あなたのフレーズをサンプリングしてループし、その上で新たにプレイを行うことができます。注記：ツマミ上の Looper に対応する LED は、サンプリング中またはループのプレイバック時に点灯します。(VYPYR15 には、LOOPER の代わりに TubeScrm が搭載されています。)

## エンジニアによる注記

### 工場初期設定に戻すには

アンプを工場初期設定に戻すには(この動作は保存した全てのプリセットを消去します)、アンプをオフにして、プリセットボタン 1 と 2 を同時に押し続けてアンプをオンに戻します。少しすると、LED がアンプリファイアのリセットを示します。

## stompboxes

STOMP	P1	P2	注記
XR Wild	レベル	ドライブ	Level[12 時]、Drive[+12db]
X Boost	レベル	ドライブ	
Fuzz	レベル	ドライブ	ロシア製をモデリング
BC Chorus	スピード	デプス	フィルターフラット(12 時)
Squeeze	レベル	センシティブィー	
Ring Modulator	周波数	ミックス	モジュレーション周波数 80hz ~ 2Khz
Auto Wah	スピード	デプス	デプスが最小時は P1 は固定として動作します。
Analog Flange	スピード	デプス	Depth ツマミで揺れ幅とオリジナルペダルの Regen も組み合わせり変化します。
MOG	オクターブ上	オクターブ下	レベル制御
Analog Phase	スピード	デプス	Depth でリジェネレーションも組み合わせり変化します。
Tube Scrm	レベル	ドライブ	オリジナルペダルのトーンノブ(12 時)



effects

エフェクト	P1	P2	注記
Octaver	ミックス	オクターブ	
Phaser	スピード	デプス	8段フェイザー
Rotary Spkr	スピード	デプス	
Reverse	タイム	ミックス	ミックスが最大時 : 100%ウェット、 タイム : 250ms ~ 1s
Pitch Shifter	インターバル	ミックス	ミックスが最小時に P1 でデチューンを制御
Flanger	スピード	デプス	ディレイタイム : 7ms
Slap Back	タイム	ミックス	ミックスが最大時 : 50%ドライ/50%ウェット、 タイム : 50ms ~ 167ms
Env Filter	センシティブティ	インテンシティブ	
Chorus	スピード	デプス	ディレイタイム : 15ms
Tremolo	スピード	デプス	周期 : 2s ~ 0.2s

amps

### 緑色のチャンネル

TwN Clean : Trem チャンネル、Bright スイッチ ON 状態のモデリング。

Dlx Clean : 追加 MID トーンノブ付き Vintage ツイードのモデリング

Plxi Clean : オリジナルアンプのチャンネル 2、プレゼンス 5 をモデリング

Brit Clean : 非 Top Boost (stomp boxes で Boost を足してください)

B-Kat Clean : フラット且つ輝く様なサウンド(オリジナルアンプの 12 時)をモデリング

Classic 50<sup>®</sup> Clean : ノーマルインプット、プレゼンス 7 をモデリング

XXX Clean : ミッドカット

JSX<sup>®</sup> Clean : 2x12 コンボ、クランチチャンネル、レゾナンス = 9、プレゼンス = 6.5 の状態をモデリング。

6505<sup>®</sup> Clean : クランチチャンネル、レゾナンス = 7、プレゼンス = 7 のモデリング

Rec Clean : オレンジチャンネル、プレゼンス 3:00 の状態をモデリング。

K-Stein Clean : ゲインチャンネルのクランチバージョン、プレゼンス 12 : 00、スウィープ 12:00 のモデリング

Dzl Clean : チャンネル 2 のプレゼンス 12:00、Depth12:00 のモデリング





### 赤色のチャンネル

Twn : エクストラゲインステージとして使用されるリバーブチューブのモディファイタイプのモデリング。

Dlx : EQ セクションの後ろにエクストラゲインステージが追加されたモディファイタイプをモデリング。

Plxi : エクストラゲインステージとトーンシェイピングが追加されたモディファイタイプをモデリング。

Brit : ブライアン・メイアンプ のモデリング。トーンに独自のレスポンスがあります。

B-Kat : プリリアンスを 12 時に、ミッドコントロールはゲインチャンネルで-/0/+トグルスイッチを制御

Classic 50 : ノーマルインプット、プレゼンス 7 の状態をモデリング。

XXX : ミッドカット。

JSX : 2x12 コンボ、ウルトラチャンネル、レゾナンス = 9、プレゼンス = 6.5 をモデリング。

6505 : ハイゲインチャンネル、レゾナンス = 7、プレゼンス = 7 をモデリング。

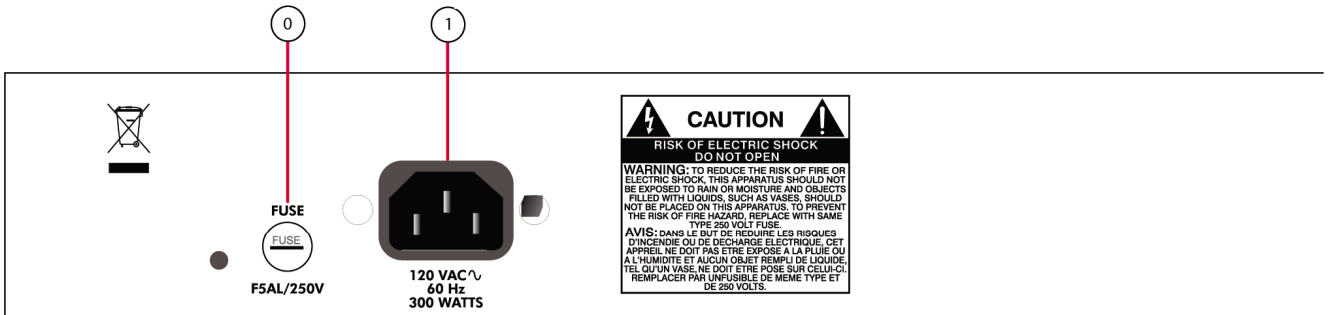
Rec : レッドチャンネル、プレゼンス 3:00 の状態をモデリング。

K-Stein : Gain チャンネル、プレゼンス 12 時、スウィープ 12 時のモデリング。

Dzl : チャンネル 4、プレゼンス 12:00、Depth2:00 のモデリング。



## リアパネルについて



### 0. ヒューズ

ヒューズはヒューズホルダのキャップ内にあります。ヒューズが切れた場合、機器の損傷を防ぎ保証の無効化を避けるため、ヒューズは同じタイプのもと交換する必要があります。ヒューズが繰り返して切れる場合、資格のあるサービスセンターに修理を依頼してください。

### 1. 電源ソケット

ヨーロッパ・スタイルの取り外し可能な電源コードをこのソケットに差し込みます。別売でより強力な電源コードも販売しています。アンプの電源を入れる前に、必ず電源コードがソケットにしっかり入っている事を確認して下さい。

ノート: 必ず付属の電源ケーブルを使用して下さい。



## 2. 拡張スピーカーアウト VYPYR<sup>®</sup> Tube 60 と Tube 120 のみ

拡張スピーカーキャビネットがある場合はこの端子から接続することができます。スピーカーケーブルをご使用下さい。製品を購入した店舗で、適切なケーブルが確認した上での接続をおすすめします。また、拡張キャビネットが定格 16 オームであることを確認してください。この定格以外での使用はアンプリファイアが損傷する可能性もあります。

## 3. 8 ピン MIDI VYPYR 15 には未装備

Sanpera I または Sanpera II をここで接続します。この MIDI ジャックは、フットコントロールの動作信号だけでなく、Sanpera フットコントローラに電力を供給します。



[www.peavey.jp](http://www.peavey.jp)



株式会社 キョーリツコーポレーション

[www.kcmusic.jp](http://www.kcmusic.jp)



株式会社 キョーリツコーポレーション

□本社・名古屋営業所 〒468-0002 名古屋市天白区焼山1-813  
TEL 052-847-5300(代) FAX 052-847-5310  
□東京営業所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-11 堀留Dビル4F  
TEL 03-5614-2081 FAX 03-5614-2166  
□大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町11番34号 第10マイダビル301号  
TEL 06-6310-7833 FAX 06-6310-7858

□福岡営業所 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町2-4 KSコンドビル201号  
TEL 092-271-1125 FAX 092-271-1203  
□仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目16-23 SLSビル3F  
TEL 022-212-9311 FAX 022-212-9322  
□札幌営業所 〒060-0061 札幌市中央区南一条西六丁目15-1 札幌あおば生命ビル9F  
TEL 011-242-3323 FAX 011-242-3325

